

容量1.7倍最終処分場新設

むつ・青森クリーン 19年1月稼働予定

むつ市奥内で産業廃棄物最終処分場を運営する青森クリーン(むつ市、加藤秀人社長)は、現在稼働している処分場の1.7倍の埋め立て容量を持つ最終処分場を新設する。施設は今月着工し、2019年1月の稼働開始を予定している。総事業費は25億円。

28日、青森銀行、みちのく銀行、商工中金などが同社に対し協調融資を実施したと発表した。青銀が主導し、融資額は総額20億円。同社や青銀によると、処分場は既存施設の北側に新設する。埋め立て面積5万1318平方メートル、容量75万5776立方メートル、埋め立て期間は15年を予定している。現在稼働している処分場(容量43万立方メートル)は07年から操業。施設を拡張し

ながら県内の産廃や不法投棄されていた本県・岩手県境の産廃を受け入れてきたが、残り容量が少なくなっていた。廃棄物処分場から出る汚水の処理施設も新設する。既存施設に比べ、3倍の処理能力を持つという。加藤社長は取材に「新処分場で、長期間にわたって安定した操業が期待でき

る。地域との共存共栄を大切に、事業を進めていきたい」と話した。

(工藤洋平、岩崎満)